

露地なし盛土式根圏制御栽培における早期多収技術の確立

要約

植付け 4 年目の幸水において、10a 当たり換算収量 3.8t、販売金額 120 万円となり、早期多収生産を図ることができた。所得は約 60 万円と、改植前の約 3 倍になった。芽傷処理等を実施することで側枝等の確保が容易となり、安定生産が図れる。

○ 展示のねらい

本栽培法は、効率的改植及び早期多収技術として、平成 23 年度に鹿沼市のなし農家 3 戸 1.1ha で導入された。定植 4 年目は、収量及び果実品質を確認し、経営改善効果を確認する。

○ 主な成果

表1 収穫果実調査

栽培方法	収穫盛月／日	果実横径 mm	果重 g	糖度 Brix%	換算収量 t/10a
根圏	8/17	89.8	358	13.0	3.9
地植	8/21	92.3	381	12.0	1.9

根圏制御栽培の果実横径は、慣行栽培と比べやや小さかったが、糖度は 13.0%と慣行の 12.0%より高かった。果実の玉揃いがよく、14 玉>16 玉>12 玉で 90%を収穫した。換算収量は約 2 倍となり、早期多収となった。

表2 発生新梢数とせん定後側枝数

栽培方法	新梢数 本/樹	側枝数 本/樹	花芽数 個/枝	予備枝数 本/樹
根圏	14.6	16.7	8.9	9.0

芽傷処理等を実施し、側枝及び予備枝候補となる新梢は 14.6 本／樹発生したため、せん定後の側枝本数は、16.7 本／樹、予備枝数は 9.0 本／樹確保できた。

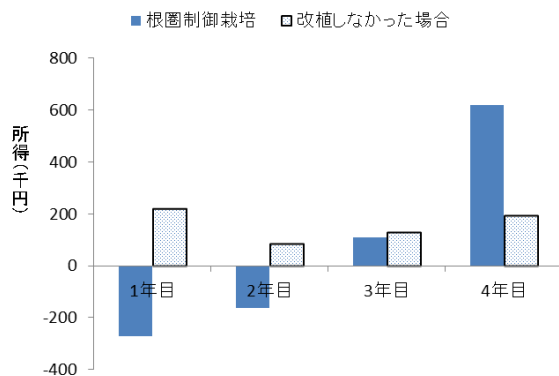


図1 所得金額の推移（10a 換算）

注. 果実単価はその年の部会幸水平均単価を用いた。

導入経費を償却期間 10 年として試算すると、所得は 2 年目まではマイナスだが、3 年目には約 11 万円と改植しなかった場合とほぼ同等、4 年目には約 60 万円と改植しなかった場合の約 3 倍となったことから、経営改善効果は高いと考えられた。

○ 今後の方向性

早期多収及び基本樹形づくりのための新梢管理技術として、栽培の手引き等を作成し、計画的な改植の推進や新規導入者の確保を図る。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部

実施場所：鹿沼市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315